

標 題 : Geographical Variation of Cancer Mortality in Italy
イタリアにおける癌死亡率の地理的な変動

著 者 : U. Facchini, et al. (イタリア ミラノ大学)

掲 載 誌 : Intern. J. Epidemiol. 14: 538-548 (1985)

要 旨 : イタリアの広い地理的な地域(北部・中部・南部)における各種の癌または一群の癌による死亡率の分布を解析した。両性で癌の総死亡率は、国の北部で南部の地域と比較してかなり上昇し(男性約 70%と女性約 30%、注省略)、中部地域では大体中間であった。

北部の死亡率は呼吸器癌および他のタバコ関連新生物で高く(膀胱を除く)、北部/南部比は肺と大部分の呼吸器の 1.5 から男性食道癌の約 4.0 の範囲であった。若い男性(40-49 歳)でこの差が等しくなる少し小さくなる傾向があった。

北部地域は、胃、大腸、肝臓と他の大部分の消化器の癌で高い死亡率を示した。イタリア南部で記録された低い胃癌死亡率が興味深いのは、国の最も貧しい地域のためである。他の全ての一般的な新生物(子宮以外)も北部で上昇した。しかし、地理的な変化は非上皮性新生物では限定された。

イタリア各地域間における癌死亡率の大きな差をほとんど却下できないのは、実際に南部で死亡診断が低いためである。その差の一部は、癌の原因として入手できる知識で説明できる(例、乳腺と卵巣の新生物での生殖因子、食道癌のアルコールとタバコ)。

しかし南部地域での低い死亡率をタバコ消費で完全に説明するのは難しい。同様に北部/南部比を非特定な工業化の結果と関連づけられないのは、北部の高度工業化地域と田園地域で癌の死亡率が同様に上昇したためである。

食事要因がその差の一部を説明できるとも考えられる。しかし現時点で、この一国内における癌死亡率の非常に特異な地理的分布の明白で一般的な説明はない。
